

島根県邑智郡桜江町 小田方言のアスペクト

岩城 裕之

I はじめに

- (1) 調査対象地：島根県邑智郡桜江町は島根県のほぼ中央部に位置し、日本海岸の江津市に約14キロ、浜田市へ約40キロの地点にある。東は川本町、西は金城町、旭町に接し、南は石見町、北は温泉津町、江津市に接している。交通は、町内を江川に沿って国道261号線、広島県三次と島根県江津を結ぶJR三江線が横断している。バス便は高速バスのみで、江津、広島までそれぞれ4本ある。調査地となった小田は、役場や駅のある川戸集落から八戸（やと）川に沿って徒歩で10分ほど奥に入った最初の集落である。戸数は約120戸ほどの農業集落である。
- (2) 調査年月日時：
1994年3月31日 午後2時から約2時間
1994年4月 5日 午後1時から約4時間
- (3) 方言話者：大上重義（オウエ シダヨシ） 大正15年 8月生 農業
大谷千重子（オウタニ チエコ） 大正 9年12月生 農業
静川サカヨ（シズカワ サカヨ） 明治40年 3月生 農業
佐々木清成（ササキ キヨナリ） 大正10年11月生 農業
- (4) 調査者・調査場所：岩城裕之、大上氏は自宅応接間で、他の3氏は道端で行った。静川氏と大谷氏は同席のもと調査を行った。
- (5) 調査方法・調査時の状況：配布された調査票に基づき面接調査。
雑談をまじえつつ、和やかな雰囲気調査できた。なお、以下の★印で掲げた事象は、調査票以外の項目で得られたものである。
- (6) 表記方法：回答順に①②の番号をふった。文末詞等は捨象する事が原則だが、文末が活用し、終止形以外の形で現れる場合もある。したがって、得られた通りの事象を表記している。NRはNon Responseのことで、回答がなかったことを示す。大上氏の回答を中心とするが、他の教示者との回答内容が違う場合は回答の前に◇をつけ、佐々木氏の回答を、●の後に大谷氏の回答を示した。●①は大谷氏の1番目の回答の意、①●は大上氏の1番目の回答であると同時に大谷氏の回答であることを示す。なお、それぞれの気づきなどは各項目の部分に示した。
★で示した事象は調査票にはなかったもので、参考事象として掲げてある。

II 調査結果

- 1 （昔は）よく行ったものだね ①イキヨッタ モンダ ②ヨー イッタ ①のほうが盛ん。①は「ヨル」に「タ」が下接した形。反復経験が「ヨル」で表されるものか。「タ」は回想か。
- 2 （あのころは）おもしろかったなあ （アノ コラー）オモシロカッタ チーア 共通語形と変わりはない。1と違って「ヨル」は出てこない。
- 3 （もうちょっとで）落ちるところだった オチル トコダッタ
- 4 （今にも）落ちそうだよ ①オチルデ ②オチカカッター ヤ
- 5 （財布を）落として オ下シテ

- 6 困っている ①コマツタモンダ ②コマツタ コトダ
- 7 (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ①ハー キエル ②キエソーナ ●キエル
キエル ●は、「キエル」を2度繰り返すことによって「消える」状態が切迫しているこ
とを告知している。2度繰り返す事が必須。
- 8 (今) 消えようとする(瞬間) ハー キエル ●キエ方カツトル 「ハー」は必須
成分。共通語では「もう」に相当するか。
- 9 (完全に) 消えた(瞬間) 下トトー キエター ●キエタ 「トトー」は必須成
分。無印で示した大上氏は、8、9の違いを「ハー」などの副詞によって区別している。
- 10 (すでに) 消えていたよ キエトツタ
- 11 (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた キエタータ
- 12 (何本もの蠟燭が次々) 消えて行くなあ キエテ イキヨラー ヤ
- 13 (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ キエテ イキヨル
- 14 (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ キエタ
- 15 (何本もの蠟燭を次々) 消しているよ ケシヨール
- 16 (もう全部) 消しているか ケシタル ○ケシタルカ ケシテナーカ ユー コトー
ミテキテ クレー ヤ。
- 17 (今にも桜が) 散りそうだ ◇チル ●チリソーダ
- 18 (ちらほらと) 散り始めた (ポツラ ポツラ) チリダータ ●①チリハナエタ
②チリダシタ ●では、「チリハナエタ」と「チリダシタ」では、前者をよく使う。男性
では得られなかったのが女性の言い方であるか。調査の必要が残る。
- 19 (今現に) 散っている ①パラパラ 牙チョール ②チツトラー ③△チリヨール
◇チリヨール 大上氏と佐々木氏とで異なった結果となった。前者は「トル」を伴った
形。後者は「ヨル」を使っている。
- 20 (桜の木がすっかり) 散っている ①◇チツテ シモータ ②チツタ
- 21 (地面一面に) 散っている チツトル
- 22 今にも降りそうだ ①アメガ ブラサガツトル ②ハー フリソーナ 「アメガ
ブラサガル」は、雲が低く垂れ込めて雨が落ちてきそうな状態。比喻である。
- 23 (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ フリソーナカッタ
- 24 (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ ラットツタ
- 25 (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ NR
- 26 (来年の今ごろは家を) 建てている(最中) ①タチョール ②タテヨル
- 27 (来年の今ごろは家をすでに) 建てている タツトル 26、27で「ヨル」と
「トル」の違いが出てきた。進行は「ヨル」、結果は「トル」を伴う。これについては、
大谷・静川氏からも次のような教示があった。例えば「来る」という動詞についてである。
- ★ ●「ヨル」「トル」「タ」について
- キヨル 向こうからやって来ている状態。
- キタ 今、目の前についた瞬間。
- キトル しばらく前から来ている状態。
- 28 (あの家はよく) 磨いてある ミガイトンザラー ヤ 「～ンサル」というプラス
方向への待遇性のある表現。
- 29 (隣の犬が) 鳴いている ①ホエトル ②チイトル ◇ナタ 犬が鳴くという場合、
「吠える」という動詞を使うのが最も一般的である。先の「ヨル」と「トル」の違いは進

行か結果か、ということと考えられていたが、ここでは進行にも関わらず「トル」が出てくる結果となった。

30 (隣の子が)泣いている ナキヨール ◇ナイトル 佐々木氏は犬の場合は「ナク」であり、子供の時は「ナイトル」である。同じ状態を表しているのだから、「ヨル」のついた複雑な形態を使う方が、より関心が高いという事になろうか。犬とこどもへの注目度の違いであると考えられなくもない。

31 (こどもたちが)喧嘩している ケンカ シヨル

32 (家に)いるかなあ オル カ ノー ●オンサル カ ナー

33 (〇〇さん)いるか オル カイ

34 (ああ)いるよ オル

35 (そういう人も)いるよ オル

36 (あなたは今何を)していたか ①シトツタ ②シドル

37 (私は今金魚を)見ていたよ ①ミヨラー ヤ ②ミトツタ トコ 前者は状態を表し、後者は結果を表すとの教示があった。◇①ミトツタ ◇②ミヨッタ 前者は今見終わったということ、後者は今まさに見ているということを示すとの教示があった。

38 (金魚が今にも)死にそうだ シニソーナ 「シニヨル」は使わない。

39 (やっぱり金魚は)死んでいたよ シンドツタ

40 読み始めていた ①ヨ ミ ハジメタ ②ヨミダータ

41 読み始めたところへ(～た) ヨミヨッタ トコ

42 着くと同時に～した ①ツイタ トタンニ ②ツクナリ 特に使い分けはないとの教示があった。

43 着くと同時に～してくれ ツイタラ スグ デンワ モー

44 鳴りつづけている ナリッパナシ

45 (先生は今何を)しているか シトンサル カ 「～ンサル」というプラスの待遇表現を伴った言い方。もとは「シトル」であろう。◇シヨンサル カ 「シヨル」の形。教示者によって「ヨル」と「トル」の2種が出てくる結果となった。

46 好きだ スキダ

47 見られているのも ●ミラレトルノモ

48 (今、運動会が)ある ①ヤツ下ラー ヤ ②アリヨル 「アリヨル」は、「ウンドーカイガ アリヨル」の形で使う。しかし、ごく稀な言い方。「ヤル」に下接する場合は「トル」、「アル」に下接する場合は「ヨル」という結果になった。これは、「ある」と「やる」という動詞の性格によるものであるか。前者は存在を示し、後者は動作を示す。

49 (降らなくて)よかったよ ヨカッタ

50 (先生がこっちへ)来つつある ①オイデン チツトル ②キヨンサル これも「～ンサル」という待遇表現を伴った言い方。もとは「キヨル」か。なお、(先生が)こっちへ来つつあるという場合は、「オイデル」という尊敬動詞を使う方が一般的。これによって51のような場合と区別する。

51 (犬がこっちへ)来つつある キヨール

52 似ている ニドル

53 (一週間も前から遊びに)来ている キトラー ヤ

54 (昔から)苦労していない クロー シトラン

55 (今はあまり)苦労しないでいる クロー ショーラン

- 56 ~は売っているが、~は売っていない ~ワ ウツドルガ ~ワ ウツ下ラン
- 57 (昔からタバコを) 売っている ウツドル
- 58 (今、大売り出しで衣料品を) 売っている ウリヨール
- 59 (もう三回) 来ている キトル
- 60 (いつも) 来ている キトル
(さっきから) 来ている キテオル
- 61 (昔はいつも) 来ていた (ムカジャー ヨー) キトツタ ◇キヨツタ
- 62 (前に一度) 行っている ①イッタゴ下ガ アル ②◇イツドル
- 63 先に行っておいてほしい イツトナッサー
- 64 待っていなさい マットンサイ ヨ
- 65 (外に) 待たせてあるよ マタシトル
- 66 食べておいておくれ ①タベトケー ヤ ②タートツテ
- 67 (昔と) 違っている チゴートル
- 68 (昔は今のと) 違っていた チゴートル ●チゴートツタ
- 69 (毎日梅干しを) 食べている ①タートル 喰うを使った言い方。食べるよりもこちらのほうが一般的。
- 70 (毎朝) している ①ヤリヨール ②シヨール
- 71 気をつけていて (~した) キヨー ツケトル
- 72 行ったまま~ ①イッタキリ ②イッタナリ (ただし年輩のみ)
- 73 ~しながら ~ シー シー
- 74 ~の途中で~する ①イキシナ三 ②イキガケ三 ①のほうをよく使う。なお、「~の途中で」の部分しか得られなかった。
- 75 ~の途中で~した イキヨーツテ 「~の途中で」の部分しか得られなかった。
- 76 ~の途中で止めて~した ①ヨミヨーツテ ヤメタ ②ヨミガケテ
- 77 ~したばかりだ ヨンダバツカリ
- 78 無くなっている ①フー ナツタ ②チーヨン ナツタ
- 79 無くなるぞ フー ナル デー
- 80 掛けておいた帽子 万ケトータ ポーシ
- 81 並んだ本 ナランドル ホン
- 82 並べた本 ナラベタール ホン
- 83 ~しておこうか ヨンド コー カ
- 84 やってあるか ①ヤツタ カ ②ヤツドル カ
- 85 壊している メギヨール 「壊す」ではなく、「めぐ」という動詞を使っている。
- 86 壊れている コラレトル
- 87 壊されている ①メガサレトル ②コワサレトル
- 88 のけてある ノケトル
- 89 書き終わった 万ータ トコ
- 90 書いてしまいなさい カギナッセ
- 91 書いてしまう ①万イター ②万イテ シモータ ③万イテ シマウ
- 92 書いてみた 万ーテ ミタ
- 93 (孫は今) 入院している ニューイン シトル
- 94 (孫も今) 入院しているそうだ ニューイン シトルラシー 93も94も「トル」

を使う。直接経験、間接経験の別は「ヨル」と「トル」の使い分けには影響を与えていない。「ラシー」(らしい)を使うか使わないかが直接経験と間接経験の区別を表している。

95 (きっと)よくなるよ ①ヨー ナル ②ヨー ナッテ クル ②はごく稀。

96 (だんだん)よくなるよ (ダンダン)ヨー ナッテ キヨール 95では「クル」を伴った形は稀であったが、ここでは「クル」を伴ったものが一般的である。調査項目の「だんだん」に相当するものとして「ダンダン」があるが、それと同時に「クル」という動詞が変移を示す役割をはたしていると考えられる事も出来よう。なお、「イク」ではなく「クル」が使われている事が注目される。

97 歳とるとね、 トシ 下リチャー 「イク」または「クル」を使う事はない。

98 なおらなくなるよ ナオランヨー ナッテ クル ここでも「クル」を使う。ここでは自分の事に対して「クル」を使っている。ここから察すると、先の95、96の2事象は、話者が入院している相手の立場に立って言っているものと思われる。

99 (1) (犬が)怪我したので × この場合は「ケガシター」と言う。

(2) (こどもが)怪我したので ×

(3) (お父さんが)怪我したので ×

(4) (雨が)降ってきたので ×

待遇の「ヨル」であるが、桜江町小田では待遇性を持ったものとしての「ヨル」は確認できなかった。

100 (1) 雨が降りつつある A

(2) 貯金が増えつつある B

(3) 貯金を増やしつつある B

(2)(3)では、今始まったばかりの状態を「つつ」で表すが、(1)のみが始まりそうな状態を「つつ」で表すことになっている。なぜ(1)だけが違うのかは不明である。

III 総括

質問文で、日常生活にあまりみられない場面設定があり、回答を得るのに苦労があった。

さて、当該方言においては、「～タ」、「～ヨル」、「～トル」が盛んである。これらは単独で動詞に下接すると同時に、「～ヨル」または「～トル」の後に「タ」がつく形で組み合わせられることもある。調査結果から看取されるのは、「～ヨル」は動作・状態の進行を、「～トル」は動作・状態の持続を、「～タ」は過去の動作・状態を表しているということである。しかし、これとでも、明確に分けられるものではなく、ある人は「ヨル」を使い、同じ場面である人は「トル」を使うといった場面もある。事態の捉え方の個人差の反映と考えるべきであろうか。調査方法に問題があったものであろうか。ただ、両者の間の漠然とした違いをまとめると、上のようになるように思われる。また、これらで表される以外のアスペクトに関する事柄は、副詞で表現される。他にも、「キエルクエルク」に見られるように、繰り返しで表現するものも見られた。

共通語形との比較ということでは、共通語では「～ている」となる場面において、「ヨル」「トル」を用いるということが違いとして挙げられる。過去の「タ」については、共通語と、用法・形態ともに共通している。

(いわきひろゆき 広島大学研究生)